

■日時 平成30年8月15日(水) ■天候 晴れ 日本ウェルネス高等学校 通信制 対 今治精華高等学校 通信制
 ■球場 江戸川区球場 第1試合 1回戦 ■試合時間 2時間27分 ■備考 中断2分
 ■審判 球審:加藤 塁審:渡辺 渡邊 ワン

出場校名	代表地区	1	2	3	4	5	6	7	8	9						計	安	失
今治精華	四国・愛媛	0	0	1	0	0	0	0	0	0						1	2	1
日本ウェルネス・通	東京2	0	0	0	0	0	4	0	2	x						6	6	5

今治精華																			
ポジション				氏名	打	得	安	点	1	2	3	4	5	6	7	8	9		
1	捕	投	投	橋本 祐馬	2	1	0	0	四球		死球		投ゴ		四球		二失		
2	右			田邑 章馬	5	0	0	0	二飛		三振		一飛		二ゴ		投ゴ		
3	投	中		清水 羅生	2	0	0	0	遊失		四球		遊ゴ			四球			
4	中	投		藤田 翔成	1	0	0	0	四球		二ゴ			四球					
4		一投	捕	小倉 和真	1	0	0	0								三振			
5	遊	投	遊	久保 孝博	3	0	0	1		捕邪	四球			三振		一飛			
6	一	遊	一	村上 颯太	4	0	0	0		投ゴ	三振			一邪		三振			
7	三			永井 大智	3	0	0	0		遊失		遊失		三ゴ					
7				清洲 麗	1	0	0	0									三振		
8	左			旭 一輝	3	0	0	0		三振	三振				三振				
8			打	藤田 宗寿	1	0	1	0									右安		
9	二			門屋 優志	4	0	1	0			左安	二併			三振		投飛		
合計					30	1	2	1	残塁:10 併殺:0										
					備考														

■バッテリー

投手	捕手
清水 羅生	橋本 祐馬
藤田 翔成	小倉 和真
久保 孝博	
小倉 和真	
橋本 祐馬	

■投手成績

氏名	回数	打者	安打	三振	四球	自責
清水 羅生	5	17	2	6	0	0
藤田 翔成	0 0/3	5	2	0	3	4
久保 孝博	0 1/3	3	0	1	2	0
小倉 和真	2	10	2	2	1	0
橋本 祐馬	0 2/3	2	0	1	0	0

日本ウェルネス・通																				
ポジション				氏名	打	得	安	点	1	2	3	4	5	6	6	7	8	9		
1	投			津澤 拓実	4	1	0	0	三振			左飛		四球		二ゴ	二ゴ			
2	二			小松 拓毅	4	1	2	0	三振			中2		遊安		捕邪				
3	一			坂元 レオ	4	1	2	1	捕邪			投ゴ		一安		右安				
4	遊			中山 隼	3	0	0	1		三振		投飛		四球		二飛				
5	中			大城 海人	4	0	1	0		三振			左2	三振			三振			
6	右	左		富山 義士	3	1	1	1		一ゴ				三振	四球		右安			
7	捕			東 龍	2	1	0	0			遊ゴ		遊飛	死球			四球			
8	左			金木 脩祐	3	0	0	0			二飛		三振	三振						
8		打	右	老田 翔	1	0	0	0									投失			
9	三			南馬 僚介	3	1	0	0			三邪			四球	捕邪		三振			
合計					31	6	6	3	残塁:7 併殺:1											
					備考															

■バッテリー

投手	捕手
津澤 拓実	東 龍

■投手成績

氏名	回数	打者	安打	三振	四球	自責
津澤 拓実	9	38	2	10	8	1

■戦評

1回戦江戸川球場の第1試合は、初出場の東京都第2代表・日本ウェルネス高校・通信制と3年ぶり9回目出場の四国地区代表・愛媛県今治精華高校・通信制の対戦となった。今治精華は3回二死満塁から5番久保が押出四球を選び1点を先制する。中盤まで日本ウェルネス津澤、今治精華清水の両先発投手が好投を見せ緊迫した投手戦となる。再び試合が動いたのは6回。日本ウェルネスはこの回から救援した今治精華2番手藤田(翔)を攻め2つの四球と内野安打で無死満塁の好機を作る。ここで3番坂元が適時内野安打を打ち同点に追いつくと4番中山も押出四球を選び逆転に成功する。さらには代わった今治精華3番手久保から押出四球と暴投により2点を上げこの回計4点を奪う。点差を広げたい日本ウェルネスは8回相手のミスにより2点を追加する。追い込まれた今治精華は9回一死から代打藤田(宗)が安打で出塁するも後続が断たれ試合終了。6安打ながら四死球や相手のミス効率よく得点につなげた日本ウェルネスが6-1で勝利した。一方敗れた今治精華は8四死球を選ぶなど粘り強く攻撃を続けるも10残塁と攻撃の決め手を欠き無念の敗戦となった。